

令和5年度 磐田市立長野小学校 学校評価書

A:90%以上、B:70～89%、C:50～69%、D:49%以下

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察○・改善策※	学校関係者評価委員から
やさしい子	◎時と場に応じた行動ができる子 ・教師や委員会の子を中心に挨拶モデルを広げる、分かりやすい価値づけをする等、気持ちの良い挨拶が自然となるような環境づくりの仕掛けをしていく。 ・学活や道徳で場を設定し、言葉の伝え方について考える機会を作る。 ・きらきらタイムで、友達のよさを紹介して価値付ける。	あいさつや返事ができる	B	※生活委員会を中心に正門や昇降口でのあいさつ運動を継続している。正門や昇降口など決められた場では挨拶ができるが、挨拶をすることにおいて受け身になってしまう児童が多い。自分から進んで気持ちのよい(自分から進んで、笑顔で)挨拶ができる児童を増やすための取り組みを考えていきたい。 ○「心のアンケート」や「人間関係づくりプログラム」を定期的実施することで、一人一人の児童の悩みを把握し、よりよい学校・学級生活のための働き掛けを行うことができた。 ○きらきらタイム(帰りの会)で、友達のやさしいところを紹介する場を設定した。自分や友達のよさが確認できたことで、学級内の人間関係づくりにより影響を与えた。 ○学校生活の中で集団やグループ、ペア活動など自分の思いを表現する場を多く設定するようにしてきたことで、自分や相手の思いを大切にすることが育ってきている。	・朝の登校の様子を見ていると、大きな声で率先して言う子がいれば、他の子も挨拶できることが多い。帰りに一人でも挨拶してくれる子が、登校時に周りが挨拶しないとできない場合もある。挨拶ができていない子をどんどんほめることで、率先して挨拶ができる子どもをさらに育ててほしい。 ・シニアクラブなどに協力を依頼することで、学校だけでなく地域も巻き込みながら挨拶をよくしていく方法もあるのではないか。 ・今日の授業や普段目にする子供たちの様子から学校を楽しんでいる様子が伝わってきている。
		学校を楽しんでいる	A		
		自分や相手の思いを大切に行動することができる	B		
		学級は、互いにルールを守り、協力する雰囲気がある	B		
かしこい子	◎進んで学び合う子 ・活動後や単元後など振り返りを書かせる場を設定する。 ・振り返りは文だけでなく、バロメーターや当てはまるものに○を付けるものなどを用意する。 ・自分の読書タイムを作る。(本読みカード)	授業の内容が分かっている	B	○授業の終わりに、振り返りの時間を設定した。自分の学びを振り返り、成長を実感できる児童が多い。教師は、振り返りから得られる児童の思いを授業改善に生かすことができた。 ○本読みカードの裏面に「みなみが野学府の学習の手引き」を印刷し、児童・保護者ともに家庭学習の時間や内容について意識できるようにしたかったが、実際にはあまり家庭学習につながっていないことが分かる。家庭学習(自主学習)の時間については、個人差があるので、学年の発達段階に応じた時間が確保できるよう保護者への働き掛けを行っていく。 ※課題の提示方法を工夫したり、自力解決の時間を確保したりすることで、児童が課題を自分事としてとらえ、進んで教師に質問して課題を解決していこうとする意欲を高める。	・「家庭学習」「進んで学習」の項目の評価が低い。子供たちが主体的に取り組める環境を家庭でも作っていくことが大切なのではないか。保護者の中には本読みカードの存在を知らない人もいる。子供に任せる部分も大事ではあるが、保護者の協力は不可欠である。仕事が忙しく、時間に余裕がない保護者も多いという現状があるが、その中でできることを協力してもらおう体制づくりが必要ではないか。 ・言葉に関心がなかったり、語彙力が低下していたりする中で、読書習慣を身に付けることはとても大切なことである。家庭にも協力を図りながら読書に親しむ時間を増やしてほしい。
		決められた時間以上、家庭学習をしている	D		
		進んで先生に聞いたり、自分で調べたりしている	D		
		自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いたりして、共に学ぶことができる	B		
		読書習慣を身に付けることができる	C		
たくましい子	◎自分のからだを守る子 ・体力強化のプログラムを委員会主催で昼休みに行う。 ・主体的な判断を育成する命を守る訓練や通学班会を計画する。 ・目標の設定や振り返りができる場を設ける。	屋内や屋外で、毎日体を動かしている	C	○低中学年の児童は、昼休みに外で友達と遊んだり運動したりする姿が多く見られ、身体を動かす習慣が身に付いている。 ※高学年の児童は、外遊びをする姿が減っているように感じる。学級遊びを企画したり、教師と一緒に外に出たりなど子供たちが外に出る機会を増やしていきたい。 ○運動会などの体育的な行事や命を守る訓練に向けて、多くの児童が自分の目標をもち、練習に取り組んだり、訓練を実施したりすることができた。 ※コロナ感染症が5類となり、学校生活の中での手洗いうがい、消毒の習慣が少し薄れてきている児童が見られる。新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどがまだまだ流行しているため、引き続き声掛けを行ってほしい。	・外遊びは子供に任せてはどうか。教師と一緒に遊ぶことで外遊びに向かう子が増えると思うが、教師の負担になってしまうのではないか。子供たちが外遊びをしたくなるような手立てを考えてほしい。 ・身の回りの整理整頓をし、学習環境を整えること(特に机上の整頓)はとても大切なことである。学校生活での学習環境はもちろんであるが、家での実態がどうなのかも気になることである。
		自分の立てた安全・運動・健康の目標に向かって努力することができる	B		
		身の回りの整理整頓をし、学校をきれいにしている行動ができる	C		
		自分から手洗いうがいができる	B		
家庭・地域との連携	・地域を理解し、親しみをもたせるとともに、豊かな感性を育てるための龍門館教育の継承を図る。 ・本校の教育活動について理解してもらうための広報活動を充実させる。	龍門館教育の伝統や地域を生かした特色ある教育活動を進めている	A	○コミュニティスクールコーディネーターの働き掛けにより、総合的な学習の時間を中心に、多くの学習ボランティアの協力を得ることができた。読み聞かせや登下校指導など、保護者や地域の方の協力に支えられて充実した教育活動ができています。 ※龍門館から続く長野小学校の歴史や緑十字機の史話、千寿の舞、仿僧川の治水など、今後も地域教材と関わる学びの場を生かし、児童の意欲が高まるような指導を継続していく。また、ホームページや学校だよりなどを効果的に活用し、情報発信を続けていきたい。	・長野小独自の教育として子供たちも龍門館を意識しているのとてもいいことであると感ずる。昨年度、子供たちが授業で作ったものやまとめたものなどを、交流センターに掲示することで地域の方々にも見ていただいた。地域の方々に好評であったため、連携を取りながら地域にどんどん発信していきたい。
		めざす子どもの姿や、取り組んでいる教育内容などについて知っている	A		
		保護者・地域の方に学校の様子などの情報公開を行っている	B		
		地域の人たちと、学校や地域で関わっている	B		

学校関係者評価を受けてのまとめ

長野小の子供たちは、地域の方々から温かく見守られ、大切に育てられていると感じる。毎年、コミュニティ・スクールコーディネーターが学校と地域の多くの人材とをつなぐ役割を担ってくださっているおかげで、学習ボランティアやゲストティーチャーをお願いしたり、登下校指導のボランティアを募ったりして、安心して安全で充実した活動を送ることができる体制を整えることができています。来年度も、龍門館から続く長野小学校の歴史や地域教材と関わる学びの場を生かして、児童の意欲が高まるような学習を継続していくとともに、今年度課題があがった点を中心に子供たちのよりよい活動を模索していきたい。そのために、家庭学習の在り方や家庭読書を推進する「本龍デー」の共通理解を進め、家庭に協力を仰いでいく。また、委員会を活用して外遊びの推進を図ったり、昼休み後のやかたタイムを活用して、子供たちが自分たちで遊びやレクリエーションを企画し運営したりと、子供たちが主体的に活動できるように支援していきたい。